

【小谷小学校在校生保護者からの意見提言（原文ママ）と回答】

・大人には説明会や手紙等がありました。当事者である子どもには説明がありません。学校の先生ではなく、教育委員会や市から各学年毎に分かりやすい言葉で統廃合について説明が必要だと考えます。説明し子どもからの質問に子どもたちが納得できるまで応えて欲しいです。一番不安を感じているのは子どもです。

・1年生の子どもは、ずっと小谷小が良いと言っています。まだ入学したばかりなのに学校がなくなってしまうのはショックだと思います。話をした時に暗い表情になりました。三町免なので赤見台第二小か吹上小を選ばなければならないと伝えました。どちらにも同じ保育所だった友達がありますが、それでも小谷小が良いと言いました。学童の話をしたところ、本当は嫌だけど小谷学童に行けるなら吹上小に行くと、教育委員会や市の意向に渋々返答をしました。市、教育委員会、保護者や大人が話し合っていますが、一番負担を強いられるのは学校が変わる子どもたちです。統合後も学校が変わる子どもの気持ちに配慮をして欲しいです。

⇒学校の主役は子どもたちであることを、教育委員会は第一に考えています。

子どもたちへの説明については、最も良い時期を見定めて実施する予定です。

学校の再編については、やり直しがきくものではありません。子どもたちは、選択を求められた時には、再選択もできると考えてしまう場合もあります。再編に向けた課題や対応等、選択するための材料についての理解も大人と同じようにできるわけではありません。

適正配置等の考え方にも示していますが、子どもたちが直面している課題の解決、そして高い可能性を秘めた子どもたちの将来のためには、私たち大人が、どのような考えのもとに、どのような教育環境を提供すべきなのか、また、どのような支援を行うべきのかなどをしっかりと見定めることが大切であると考えています。

教育委員会としましては、学校関係者や保護者、地域の方々と連携協力して、それぞれの立場から「現在と未来の子どもたちのよりよい教育環境のために」という共通の視点で協議し、大人が枠組みを作り、その枠組みに対して、子どもたちから不安な声があれば、耳を傾け、大人が子どもの不安を取り除き、背中を押してあげられるような環境を作っていくことが重要と考えています。

・再来年以降に入学する児童がいる場合、きょうだいで違う学校に行くのでしょうか。

⇒これまで、学校統合や通学区域の変更が行われた際には、その時点での子どもたちや保護者の負担軽減を目的に、様々な経過措置を設けています。

その一つとして、兄弟姉妹での入学・進学先の配慮があります。兄弟姉妹で違う学校に通学することを選択する家庭もありますが、教育委員会としましては、兄弟姉妹で同じ学校に通学できるよう配慮し、経過措置を設けたいと考えています。

・吹上小へ行く場合、学年毎のカラー帽子は市や教育委員会が支給してくれますか。3つの小学校の統合ですから吹上小の児童だけカラー帽子を買うコストがかからないということになりますか？赤見台第二

小、箕田小も同様です。市や教育委員会の意向で統廃合するのです。

⇒これまで、学校の統合が行われた際には、学用品の支援も実施しています。今後も実施していきたいと考えています。

・小谷小と吹上小、赤見台第二小、箕田小とで違う持ち物があれば早めに教えて欲しいです。

⇒通学区域の見直しが決まり次第、早めにお知らせします。

・吹上小に行く場合、運動会や授業参観等、行事の時は吹上支所の駐車場を使いたいです。

・赤見台第二小や箕田小も駐車場を用意して欲しいです。

⇒現在は、市内全ての小中学校に共通することとして保護者の皆さんは、原則、徒歩か自転車での来校をお願いしています。

通学区域の見直しに伴う登下校に関しては、児童が徒歩で通学できることを優先と考えていることから、保護者の方が来校する際にも、徒歩または自転車で来校できるよう検討します。

※学校の立地状況や家庭の事情、行事の日程等により対応が異なる部分もあることから、御意見として承ります。

・再来年以降に入学するきょうだいが違う学校の場合、朝送り出す時間が違うことや迎えに行く学童が二か所になることとなります。朝はともかく、二か所の学童に迎えに行くのは負担です。片方の学童の閉室時間に間に合わないかもしれません。心配です。

⇒各家庭により、事情が異なり、全ての家庭の負担や不安を全て取り除くことは出来ませんが、出来る限り負担や不安が少なくなるように検討を進めます。

・新たな学校の始まりなので新しい校歌が必要と考えます。大芦、小谷の児童だけ新たに校歌を覚えるのは不公平です。赤見台第二小、箕田小も同様です。他校では音楽の先生が中心となり校歌を作っています。

⇒他の自治体の中では、統合する際に既存の学校は施設としては活用しますが、組織としては全て廃止し、校歌や校章、学用品等も刷新し、新たな学校組織として整備するといった取組をしている自治体もあります。

本市においても、適正配置等の取組を進めるにあたり、同様の検討をしましたが、現時点では、その考えはありません。

これまで、閉校する学校の保護者等から、教育委員会へいただいた御意見の中には、校歌や校章、校名を新しくするための時間や費用をかけるならば、子どもたち自身への心のケアや各家庭への学用品の補助等をお願いしたいといった意見をいただいております。

教育委員会としましては、そのような意見を踏まえ、最適な支援について検討してまいります。

・二校が廃校になり、二校を運営するための費用がかからなくなります。その分、PTA で負担している作業を各専門の業者に依頼しても良いのではないのでしょうか。草刈りや広報の作成、運動会等の行事の運営等です。係のことを気にせずいつも子どもを応援したいです。

⇒子どもたちへの関わり方や応援の仕方については様々な方法があると思いますが、PTA の役割に関しましては、保護者や教職員が協議し、各校の実情に応じて、連携しながら対応しています。

PTA 関係の費用以外でも、学校を運営していくためには様々な費用がかかっており、現在の教育環境が抱える ICT 教育の推進や施設の老朽化、LED 化やバリアフリーへの対応など、限られた予算の中で、これまでどおりの対応では、教育環境を維持していくことは難しい状況です。

御意見のとおり、適正配置等に取り組むことで、今後の教育環境の整備に向けて、集中的な投資を行い、未来ある子どもたちの学校生活がより良いものとなるよう、計画性をもって、これまで以上に迅速な対応を図ります。

・話が逸れます。子どもや学校運営のための PTA ですが、PTA の会合や市内 PTA の交流のために子どもが犠牲になってはならないと思います。必要な集まりか、業務を精査する必要があるのではないのでしょうか。

⇒PTA の活動内容に関しましては、それぞれの学校ごとに、保護者や教職員等で協議されていることから、教育委員会として直接的に関わることはありませんが、最近では、各校ごとに活動の見直しなど、精査が進められていると伺っております。

・吹上小、赤見台第二小、箕田小それぞれにバスでの送迎をして欲しいです。通学時間は通勤時間でもあるため、低学年にはリスクがあります。バス代を負担しても良いです。

⇒現在、市内の小中学校は、家庭から学校までの距離が直線距離でおよそ 2 km 以内に設置されており、徒歩通学が基本となっています。

しかし、学校統合や通学区域の変更が行われた場合には、通学距離が遠距離となる家庭もあることから、スクールバスの運行に関する基準を定め登下校支援を実施しています。

運行基準についてですが、国では、小学校の場合は片道 4 km 以上、中学校の場合は片道 6 km 以上といった基準を設けておりますが、現実的に小学生、特に低学年や中学年の児童が片道 4 km 歩くというのは難しいと考え、鴻巣市では直線距離で 2 km という基準を設けています。

小谷小学校につきましては、通学区域の見直しを実施し、隣接した学校に通学することとなった場合には、2 km を超える家庭はなく、他の地域と比べても遠距離とならないことから、現状ではスクールバスの運行は考えておりません。

しかし、公共交通機関の利用や自転車の利用等に関しましては、他の地域からも御意見をいただいておりますことから、国の動向や他の先進自治体の取り組み事例を参考にしながら検討を続けます。

・再来年以降に入学する児童もバスで通学したいです。保護者は仕事があり、登下校時の見守りや付き添いには限度があります。

⇒スクールバスによる登下校支援に関しましては、特定の地域に対して、過度なサービス、過度な負担を強いることなく、市内全ての地域との均衡、これまでの経過や将来的な見通しを考えた上で、実施します。

現時点では経過措置期間を設けて実施することを想定しており、将来的には、全児童が歩いて通学できる通学区域の設定をしていきます。

通学区域の見直しに伴う保護者の登下校の見守りや付き添いについても、市内の他の地域と同様の対応を考えており、過度な負担を強いるものではありません。

・吹上小に行く場合、小谷小地区で前砂、明用でも希望すればバスに乗れるようにしてほしいです。長距離を歩いた後に、学校で朝マラソンや朝礼等があり、体力の面が心配です。小谷小地区は学童に通う児童が多く、遅い時間に家に帰り、入浴、食事、学校の準備や宿題をやっています。吹上小に通うとなると今よりも朝早い時間に起床しなければなりません。吹上中は7:00より前に家を出てはいけない決まりがありました。小谷小から吹上小に変わる前砂、明用の児童は7:00より前に家を出る可能性があります。

⇒将来に渡り適正な通学区域を定めることを目的としていることから、通学距離や登校時間に関しまして、市内の他の学校と比較して、余りにも早朝に出発しなくてはいけなくなるなど、児童や保護者に対する過度な負担を強いることは考えていません。

現在、吹上小学校では、登校時間の見直し等も実施しており、これまでよりも登校時間を遅らせています。仮に小谷地域の明用・前砂地区が吹上小学校区となった場合でも、午前7時より前に家庭を出発しなくては始業に間に合わないといった状況はないと考えております。

・巡回バスを利用した登校も考えて欲しいです。八丁免から上新田、旧三町免や三島神社等のバス停でそれぞれの地域の児童が乗車できると良いと考えます。巡回バスではなくても各地域にバス停があると良いです。

⇒フラワー号など、公共交通機関の利用に関しましては、鴻巣市立小・中学校あり方研究懇話会におきましても意見をいただいております。

フラワー号のルートや乗降場所を検討してはどうかという意見や、子どもはたくましく、すぐに慣れるのではないかといい意見、一方で、児童が一人で利用することは不安であるという意見など、様々な御意見をいただきました。

また、高学年の登下校時の自転車利用についての意見交換もさせていただきました。

現時点では児童の安全性確保に不安があることから、公共交通機関の利用や自転車通学の実施については考えておりませんが、今後につきましても安全性の確保を含めた通学方法について検討を継続してまいります。

・再来年以降に入学するきょうだいもバスで登校したいです。

⇒スクールバスによる登下校支援に関しましては、特定の地域に対して、過度なサービス、過度な負担を強いことなく、市内全ての地域との均衡、これまでの経過や将来的な見通しを考えた上で、実施します。

小谷地域におきましては、現時点では在校生が卒業するまで、経過措置期間を設けてスクールバスの運行を行うことを想定しており、兄弟姉妹も対象と考えております。

しかし、あくまでも経過措置を設けて実施するものであり、指定校につきましては、明確に示す必要があると考えることから、期間を定めて実施する必要があると考えています。

・コストを心配しているようですが、小学校が二校廃校になるのです。廃校にならなければ運営するために必要な費用があったはずで、廃校する二校の光熱費、人件費諸々を考えればバスを出すことは容易だと考えます。

・バスについては勢い余ってNHKに投稿しました。

⇒御意見のとおり、学校を運営していくためには様々な費用がかかっており、適正配置等に取り組むことで、ICT教育の推進や施設の老朽化、LED化やバリアフリー化への対応など、今後の教育環境の整備に向けて、集中的な投資を行い、未来ある子どもたちの学校生活がより良いものとなるよう、計画性をもって、これまで以上に迅速な対応を図ります。

スクールバスの運行に関しましても、学校再編により、他の地域と比べ、余りにも遠距離通学となる児童を対象に実施しているものであり、現在は学校から家庭まで直線距離で2kmといった基準を設けています。この基準については、鴻巣市独自のものであり、文科省が示す目安は、さらに遠距離となる、道のりで4kmとなっています。

スクールバスの運行に関しましては、これまでも様々な意見をいただいておりますので、今後も、運行費用に加え、地域の実情や国の動向を注視しながら検討を続けます。

・再来年以降に入学する児童がいる家庭には統廃合について説明しているのでしょうか。

⇒広報での周知を含め、何度か説明の機会をいただいておりますが、直近では5月13日に小谷小学校の体育館で意見交換会を実施しました。

鴻巣市立小・中学校あり方研究懇話会での意見を踏まえ、教育委員会として方向性を定めた上で、改めて、説明会等を実施してまいります。

・私たちは他市から鴻巣市に転入してきました。今住んでいる場所を選んだのは小谷小学校が近いから、鴻巣市なら保育所に入れるからです。統廃合で学校が遠くなり、違う学校に行くなら転入前の市に再び引っ越すという話も挙がっています。鴻巣市なら保育所に入れるというだけで、子育て支援は転入前に住んでいた市の施策の方が助かることが沢山ありました。子育てに限らずその他のことも魅力的です。

子どもが多く保育所に入れなため鴻巣市に転入しました。鴻巣市で子どもが減っているのは子育て支援に魅力がないから、子育て後や高齢になった時に不安を感じているからではないかと考えます。子育て支援のみならず、安心安全な生活ができるよう前市長をはじめ議会で積極的に話し合われたのでしょうか。話し合っても具体化されず、一部の市民の声を吸い上げた結果、子どもが減っているのではないのでしょうか。統廃合によって長距離の通学路を徒歩で、危険な場所を乗り越えて通学するなら他市へ引越すことを考える世帯もあると考えます。

⇒全国的な少子化の影響により、子どもの数は減少しており、本市における児童生徒数も、今後、減少していくことが想定されております。

小谷小学校においては、これまでも全ての学年でクラス替えができない単学級ではありましたが、今後、さらに児童数が減少し、一クラスの人数が一桁になるまで減少してくることが想定されています。

鴻巣市への転入や定住にあたりましては、教育委員会にも多くの御相談をいただいております。

いただいた意見にもございますが、家庭から学校までの距離が近いというのは大きなメリットであることは間違いありません。しかし、転入や定住を検討される方の中には、近い学校であっても、余りにも少人数の学校に不安を抱く方が多数いることも事実です。

一クラスの人数が一桁まで減少した場合は、集団での学習活動に制限が出てくるなど、現実的に市内の他の学校との教育環境の格差が広がってしまうことから、市内のどの学校においても、一定の水準の教育を行うことが義務教育であることを前提に、学校再編に取り組むことが、課題の解決に繋がるものと考えています。

市の子育て施策に関しましては、市の最上位計画である第6次鴻巣市総合振興計画において、施策1に示されており、鴻巣市の将来人口の目標を達成する上では、全国・埼玉県平均を下回る合計特殊出生率の向上を図るとともに、子育て世代の転入を促進することが重要であるとされています。

子育て世代への支援策に関しましては、これまでも様々な検討しているところですが、他市で取り組まれているような先進事例を参考に、鴻巣市独自の取組について研究を続け、子育てと教育が連携し、結婚から出産期、子育て期までを切れ目なく支援する魅力のある取組について検討してまいります。